



インターンの学生からアルファベットを教わる。
6月に学校が始まるまで、「子どもの家」で勉強。

「子どもの家」、遂に運営開始！

<路上の子どもたちの事業：担当スタッフからのレポート>

1月27日、遂に児童養護施設「子どもの家」の運営が始まりました。様々な事情で家族と暮らすことができず、路上で生きてきた子どもたちが、この「子どもの家」に入所することで、スタッフからの愛情を注がれながら安全に暮らすことができ、学校にも通えるようになります。

最初に入所することになったミギー君（13歳、仮名）は、家族からの育児放棄が原因で、12歳の時に兄と一緒に線路沿いで路上生活を始めた子どもです。物乞いやゴミ拾いをして暮らす中で、アイキャンが運営するドロップインセンター（通所型の保護施設）にも時々姿を見せるようになり、ソーシャルワーカーによる度重なるカウンセリングを経て、「子どもの家」への入所が決まりました。

1月27日午後、アイキャンのスタッフと共に、ミギー君が「子どもの家」に到着しました。寮母やソーシャルワーカー、インターン生等に温かく出迎えられ、ミギー君は大興奮で、施設の中を笑顔で歩き回りました。それでも、夜になってスタッフが帰宅しようとする時、「帰らないで」と泣きついていました。

数日経つと、施設での生活に慣れてきたのか、帰ろうとするスタッフに元気に「バイバイ」と言えるようになりました。今も路上の仲間を思い出して時々寂しくなるようですが、インターン生とバスケットボールをしたり、敷地内で育った果物や野菜を寮母と一緒に取りに行ったりするのを楽しんでいます。

入所から3日目の夕食時、ミギー君は「路上ではお米に醤油や油をかけて食べていた。ここでは毎日美味しいご飯が食べられる。路上ではなく施設にいたい。」と話してくれました。ミギー君は、13歳なのに体重はわずか24kgで、同年齢の平均体重45kgの半分程しかありません。一刻も早く健康状態を改善できるよう、栄養価の高い食事の提供や、医療的ケアを行っていきます。

1名でスタートした「子どもの家」ですが、今年度中に5名の入所を予定しており、その後も徐々に人数を増やしていきます。「子どもの家」の建設・運営を応援して下さった多くの方々の想いが詰まったこの施設を大切に運営し、これから入所する子どもたちにも沢山の愛情を注ぎ、大事に育てていきます。より多くの子どもたちが暮らせる施設にできるよう、これからも応援を宜しくお願いします。



ICAN マニラ事務所
岩下奈未 (いわしたなみ)
～プロフィール～
九州大学21世紀プログラム卒業。総合化学メーカー海外営業、ICAN紛争地の子どもの事業プロジェクトマネージャー補佐を経て、現担当。

Project Site



①ピキット

②ジェネラルサントス

※●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

認定NPO法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9階 TEL/FAX: 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp
ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

【編集者から一言】「子どもの家」の運営には、皆様の継続的な応援が不可欠です。ぜひ「マンスリーパートナー」になってください。

①紛争地の子どもたち(ピキット)

1月14～16日

「平和の学校」をより良いものへ



「平和の学校」の活動の質を向上させるため、各校の取り組みを報告する「平和の学校 कांग्रेस」を開催し、教育省や学校関係者50名が集いました。成功事例を通して、運営には地域の理解と協力が不可欠であることなどを学んだ参加者からは、「今回学んだことは、現在学校で直面している問題を解決するために非常に役立ちそうです」(アルサドさん/38歳)などの感想がありました。

②ジェネラルサントスの子どもたち(ジェネラルサントス)

1月16日

奨学生としての気持ちを新たに



奨学生7名が集まり、学業の進捗状況や今後の進路について共有しました。ジェサさん(19歳)は、「教育実習に行って、教師になりたい気持ちが更になり強くなりました。今まで多くの人に支えられてここまで来ましたが、今度は私が周りの人々を支えられるようになります。」と話しました。7名は、応援してくださっている方の想いを胸に、引き続き勉学に励むという気持ちを新たにしました。

今月の ICAN を増やす活動

MY アイキャン事業

1月26日/名古屋

「書き損じハガキ」ありがとうございます!

1月に新聞やテレビで活動が取り上げられた反響で、日本事務局に届く書き損じハガキのご寄付の量が大幅に増えました。写真は、26日の朝に届いたもので、長机2脚の上に山積みになりました。届いたハガキや未使用切手は、一刻も早く事業に役立てられるよう、ボランティアの方々が日々カウント作業を進めています。まだまだ募集していますので、ぜひ日本事務局までお送りください。



国際理解教育事業

1月27日/名古屋

路上の子どもについて学ぶ高校生

椋山女学園高校の2年生40名に、路上の子どもたちの現状やアイキャンの活動、身近にある「できること」についての講演を行いました。担当の先生からは、「生徒がしっかり取り組む様子から、とても充実した講演だったと感じました」、受講した生徒からは、「小さなことから始めるだけでも、明日の子どもたちの命につながる。私たちにも確実にできることがあると感じました。」との感想を頂きました。



今月の Topics

天皇皇后両陛下に御接見を賜りました

1月28日/マニラ

マニラ事務所の岩下が、フィリピンを訪問された天皇皇后両陛下に御接見を賜り、レイテでの災害復興活動や、マニラの路上の子どもへの教育活動、ミンダナオでの平和構築活動についてお話をいただきました。また、アイキャンの団体名に因み、一人ひとりが「できること」を集めて活動しているという点について、「とても大切なことですね」とのお言葉を頂きました。今回、NGOの中で唯一ご招待を受け、沢山のご寄付でできた活動の成果をお伝えする大変貴重な機会を頂き、光栄に思います。

今月の Media

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1月 JICA フィリピン NGO ダイレクター 団体紹介 | 1月22日 毎日新聞(愛知) 書き損じハガキと「子どもの家」 |
| 1月4日 読売新聞(愛知) 書き損じハガキで協力 | 1月22日 NHK「おはよう東海」 路上の現状と「子どもの家」 |
| 1月14日 電気新聞 中電社員がスカイプで路上の若者と交流 | 1月23日 中日新聞(愛知) 書き損じハガキと「子どもの家」 |
| 1月19日 中京テレビ「キャッチ!」 書き損じハガキ募集 | 1月29日 まにら新聞 天皇皇后両陛下が ICAN 職員にご接見 |

今月の ICAN なる

◎金森さん、いつも温かく応援してくださり、ありがとうございます!

マンスリーパートナー 金森雄高さん

「一番ハートフルな団体」

インタビュー:2月4日

私は、国際貢献をしている NGO を常々探し、活動内容を調べたり、募金をしたりしていました。その中でアイキャンに募金をした際、お礼の言葉が書かれた温かい手紙が届き、「一番ハートフルな団体」だと感じました。もう10年くらい前のことですが、そういう精神は人が変わっても引き継がれていると感じます。

私は名古屋で生まれたものの住んだことはなく、次の転居先を探していた時、アイキャンの事務所の近くに住んでボランティアできたらと思い、名古屋に越してきました。私自身、これまで様々な災害現場でボランティアのコーディネートを行ってきましたが、どんな人でも生きる場所があると考えていました。自分にとってアイキャンでのボランティアは、例えば書き損じハガキを正確に数えるとか、今持っている能力を發揮してできることが十分あると感じました。スタッフが今の倍いてもいいのではないかと思います。スタッフが今の倍いてもいいのではないかと思います。スタッフが今の倍いてもいいのではないかと思います。スタッフが今の倍いてもいいのではないかと思います。



アイキャンが10年後も続いていくよう、人が人を繋いで、他の地域の賛同者ももっと増えていくと良いなと思います。